



荒川区高齢者の現状 第5期荒川区高齢者プランより抜粋

荒川区の総人口20万5千375人のうち、高齢者（65歳以上）人口は、平成23年には4万4千102人、高齢化率21.47%となっています。

区内の高齢者数が最も多いのは南千住6丁目・8丁目）で、荒川3丁目、南千住5丁目などが続いています。高齢化率が最も高いのは、南千住1丁目・2丁目、西尾久5丁目です。3割以上が高齢者となっています。南千住地域では、高齢者数が多い一方、再開発整備等による若い世代の増加により、町・丁によって、特徴的な高齢化率が出ています。

ひとり暮らし、2人暮らしの高齢者世帯をみると、ひとり暮らし高齢者が多いのは、高齢者数の多い南千住6丁目、次いで南千住5丁目、荒川3丁目などが続いています。

また、高齢者のみの2人世帯の分布も同様な地域分布となっており、今後、ひとり暮らし世帯が増加することが予測されます。

南千住・荒川・町屋・尾久・日暮里地域の中では、尾久地域が最も高齢者数が多いです。

多くまた最もひとり暮らし高齢者数が増えています。

高齢者数の増加により、要介護認定者数も増え続けている状況です。要介護度が重くなるほど、認知症の症状が進んだ方が多くなり、また寝たきり度も進んでいる方が多くなる傾向にあります。

65歳以上の人数に占める要介護（要支援）認定者数の割合は増加傾向にあり、平成22年度末時点では、17.2%となっています。

地域別で要介護（要支援）認定者数が最も多いのは尾久、次いで南千住となつています。町丁目別にみると、最も多いのは南千住6丁目、次いで南千住8丁目・5丁目が続いています。

【要支援1】基本的な日常生活はほぼ自分で行うことができるが、要介護状態にならないように何らかの支援が必要
【要支援2】要支援1の状態より日常生活を行う能力が低下し、要介護状態にならないように何らかの支援が必要

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
176人	160人	311人	275人	239人	219人	201人

南千住地域の介護認定者数（平成23年3月31日現在）

【要介護1】食事や排泄はほとんど自分でできるが、身の回りの世話に介助が必要
立ち上がり等に支えが必要。など

【要介護2】食事や排泄に介助が必要
【要介護3】食事や排泄に介助が必要
【要介護4】食事や排泄に介助が必要
【要介護5】食事や排泄に介助が必要

必要。立ち上がりや歩行に支えが必要。

【要介護3】排泄や身の回りの世話、立ち上がり等が自分でできない歩行が自分でできないことがある。など

【要介護4】排泄や身の回りの世話、立ち上がり等がほとんどできない。歩行が自分でできない。問題行動や全般的な理解の低下がみられることがある。など

【要介護5】食事や排泄、身の回りの世話、立ち上がりや歩行等がほとんどできない。問題行動や全般的な理解の低下がみられることがある。など

要介護に至った原因疾病をみると、関節疾患、骨折、高齢による衰弱などの割合が高く、特に軽度者では関節疾患が突出して高くなつていきます。この他、全体として脳血管疾患・認知症が多く、心疾患や糖尿病といった「生活習慣病」も合わせて14%程度を占める結果となっています。

85歳以上になると男女ともに閉じこもり傾向が強まります。

昨年99歳で亡くなった小林マツさんは一人暮らしでしたが、在宅サービスを利用し、散歩に1時間かけ、積極的に人と交わり、日々運動し、歌を歌うことを生きがいとして、食べ物に気をつけておられました。元気で長生きされた秘訣だと思います。

高齢者の方は転倒に気をつけて外出され、趣味を持つことが、心身ともに活性化されるのではないのでしょうか。